

【 今年度の方針 】

- (1) 本格的な耐震補強工事が始まるので大森マンション管理組合の協力を得て安全に進めていく。
- (2) 法人研修では、『「緑の家」が大事にしてきた人権を守る理論と保育の実際で学び合う交流の機会』にして職員を意識を高めていく。
日々の保育では子どもの姿から学ぶことを大事にして、その成長を通じて保護者との信頼をていく
- (3) 保護者との信頼関係・職員同士の連携

【 2015年度のまとめ 】

(1) 大規模改修・耐震補強工事について

- 約1年間の工事を経て3月10日に竣工し、IS値0.7の園舎になり本当によかった。
園児の生命を守ることができる職員の安心感は、非常に大きい。
理事会、保護者、大森マンション管理組合・近隣、工事関係者、行政のみなさんに感謝です。
- 副園長の配置・非常勤保育士1名増員と、体制強化して臨んだが病休者が出て運営には困難を窮めた。
- 音・埃、危険物などに対する安全対策、例年と変わらない保育活動、保護者の安心、近隣対応など全において気遣いをした1年間。丁寧な説明と感謝の気持ちを言葉にするように、職員と確認し全てた。・・・工事説明会・仮園舎見学会・工程ごとのお便り発行
- 工事工程ごとの保育室の移動、3階の仮園舎をはじめとした園舎の分散など職員の負担も多かったが、園児の安全第一に進め通院するような怪我や事故がなく終えることができたのは何よりだった。子どもたちは、その時々々の環境に順応し「地震に強い保育園になるために」と頑張ってくれた。工期が替わる度に、アクシデントが起きないように工程会議での詰めをしたつもりだったが残念ながら最後まで何かしらがあつた。
- 保護者からの建設的な意見をいただいたが苦情はなく、協力が有り難かつた。父母の会の存在はとても大きかつたと思う。

(2) 研修を通じて大事にしたこと

- 年度初めの法人職員研修は、双方の主任・副主任と打ち合わせを重ねておこなつた。
法人の理念や大事にしている子どもの人権や権利について、一堂に会して学ぶ意義があると思つた。
日々の実践に生かすことは職員自身の保育観と一体の事で、職員会議や園内研修での討論で積み重ねた。「子どもの気持ちに寄り添う」「一人ひとりの自己決定を待つ保育」「緑の家で培つてきた保育」について理解し合うことは、指導計画や保育日誌を通じても行つたが伝わりにくいこともあつた。個別指導を丁寧にしていく。
- 工事との関係で、研修日を勤務終了後にせず土曜日の行事後にするなど職員の負担を軽くする工夫をしながら行つた。

(3) 子どもを真ん中に保護者との信頼関係・職員の連携

- 制約がある中でも、「この子たちにとっての1年間」と思い工夫してクッキング保育を例年通り行つた。
- 工事による停電・水道停止がある中、献立確認をおろそかにせず行い誤食防止・給食提供できたことは職員の頑張りの賜物。3F仮園舎への運搬も協力して行つた。

- 保育室の移動など工事中の保育・安全対策を慎重に行いお便りや連絡ノート・保育日誌などを通じて、より丁寧に心がけた。
- 保育中の傷（特にひっかき傷）は、個別な保護者の思いもあるので丁寧に対応した。
- 納涼会や餅つき会など保護者と共同で行う行事は工夫して行うことができた。
- 大気中の放射線測定を3ヶ月ごとに計画していたが遅れがちとなってしまったが4回測定。数値は玄関に掲示して保護者に知らせた。（毎回測定結果の変化なし）

(4) その他

- 共同募金からの寄付金によって、長年の懸案事項だった机・椅子を購入した。背筋を伸ばして座る願いを込めて、4.5歳児の椅子は背もたれのない椅子とした。
- 工事のため手拭き置き場を確保できなくなり、全園児のペーパータオル使用し消耗品費予算が超過した。
- 老健施設との交流は1回しかできなかった。子育て情報誌「あそびに来てね」の発行も遅れがちとなったが4回の発行はかろうじてできた。

(資料) 子どもの状況

アレルギー児除去・代替食提供

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	4	54名

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
補食	105	119	165	148	122	135	132	122	103	123	112	152	1538名
夕食	25	23	26	26	41	35	55	52	62	46	38	58	128名

一時保育・・・工事のため受けず